

# 平成25年度の取り組みについて

センター長 赤 繁 悟

当センターでは、昨年度は、開発研究「むき身かきの鮮度保持の開発～広島かきのシェア回復・拡大に向けて」の最終年に当たり、生産現場の方々のご協力をいただき実証試験を行うことができました（取組み成果は前号で紹介しています）。また、研究成果移転促進事業「地付き魚の蓄用輸送技術開発研究」においても低塩分海水を利用した蓄養技術を活用して、漁獲魚を効率的に活かして活魚として販売する実証試験を生産現場の方々のご協力で行うことができました（取組み成果は前号と本号で紹介しています）。この他にも、新たな課題化に向けて生産から流通・販売まで含めた関係者の方々に現場でのニーズ調査にご協力いただくなど、多くの方々のご協力・ご指導の下に業務を遂行することができました。

本年度は、「かき」では事前研究「殻付かきの高付加価値化技術の開発」、研究成果移転促進事業「むき身かき鮮度保持技術の成果移転促進」、また「魚」では戦略研究「特殊LED照明が県内多くの産業に波及するための研究」（H 25～27）、開発研究「地域ブランド化に結びつくウマヅラハギの蓄養・養殖技術の開発」

（H 24～26）に取り組めます。

グローバル経済の進展により、今後とも技術発展著しい新興国も含めた厳しい競争が予想されます。また、国内では少子高齢化による人口減少と市場縮小が予想される中、新たな経済成長のためには、付加価値や競争力を高めるイノベーション力の強化が求められています。水産海洋技術センターは水産事業者等の皆さんのこのような経済活動に貢献できる技術開発・支援することが使命であります。従いまして、技術開発段階から生産現場の方々と連携し、得られた成果が速やかに生産現場で活用いただけるよう取り組んで行く必要があると考えています。

県内産業へのより一層の貢献に向けて職員一丸となって取り組んで参ります。ご協力、ご支援いただいた関係者の皆様に深く感謝しますとともに、今後ともご支援、ご指導たまわりますようお願い申し上げます。

写真は当センターから観た夏の奥の内湾